

## 成績評価基準

成績評価は、担当教員の評価方法・基準によって、試験(筆記・口頭・実技等)、レポート、授業参加状況、その他に基づいて行われます。成績評価基準は次のとおりです。

区分	評語	得点	グレード ポイント(GP)	評価内容 (英文内容)
合格	S	100~90点	4.0	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
	A	89~80点	3.0	学習目標を相応に達成している (Very Good)
	B	79~70点	2.0	学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)
	C	69~60点	1.0	学習目標の最低限は満たしている (Pass)
	N	認定	-	本学以外で修得、又は資格を取得したもので本学が単位認定したもの (Credit given under Credit provision)
不合格	D	60点未満	0.0	学習目標の最低限を満たしていない (Fail)
	F	不受験	0.0	成績評価要件を満たしていない(試験不受験、課題未提出、出席不足等) (Withdrawal)

## GPA

GPAとは、Grade Point Averageの略称であり、成績評価を数値化したものです。4.0~0.0という数字で表され、この数値が高いほど優秀な成績を修めているということになります。

## 《GPA導入の目的》

- ①大学教育における成績評価基準の標準化
- ②厳格な成績評価による教育効果の向上

## 《GPA算出式》

成績評価をグレードポイントで置き換え、単位数をかけたものの総和を履修登録単位数で割って求めます。

$$4.0 \times S \text{の修得単位数} + 3.0 \times A \text{の修得単位数} + 2.0 \times B \text{の修得単位数} + 1.0 \times C \text{の修得単位数}$$

$$\text{GPA} = \frac{\text{総履修登録単位数(DやFの単位数も含む)}}{\text{総履修登録単位数(DやFの単位数も含む)}}$$

- ※全学共通科目・学部固有科目がGPA算出の対象となります。N(認定された単位)及び自由科目の単位は計算式に含みません。
- ※GPAの値は、小数点第4位を切り捨て、小数点第3位までの数値で表示します。
- ※要卒単位を超えて単位認定された科目は、単位集計表上、自由科目に区分されますが、GPA算出の対象となります。

## 《GPAの運用》

GPAの値を指標として、教育奨励賞の対象者や卒業式での成績優秀表彰者の選考等を行っています。

学習意欲を高めるために、各学期の成績が確定後、GPAの分布と平均値を公表しています。また、GPAの値に基づき、選抜等を行う科目もあります。

## 成績発表

## 《春学期科目》

8月にCHUKYO ALBOで開示します。  
開示日は学年暦(行事予定)▶▶P4~5参照で確認してください。

## 《秋学期科目・通年科目》

2月にCHUKYO ALBOで開示します。  
開示日は学年暦(行事予定)▶▶P4~5参照で確認してください。

## 《成績問合せ》

成績評価に関する問合せは、各学期の成績開示後に受け付けます。問合せ期間及び方法等の詳細についてはCHUKYO ALBOの「お知らせ」で発表します。

ただし、成績評価が妥当でない理由を具体的に事実に基づいて立証することができないものや、成績の再考や救済を求める内容のものは一切受け付けません。また、個々の判断でMaNaBoメールなどを通じて授業担当教員に直接問い合わせることはできません。成績に関する問合せはすべてこの制度を利用してください。

## 《その他》

教育後援会より5月と10月に「成績表・履修時間割表」を保証人宛に送付します。

また、成績不振などの場合に教務センターより保証人宛に成績表・履修時間割表等を送付する場合があります。

## 単位集計表の見方(区分の説明)

例)

	区分	履修 単位	既修 単位	要卒 単位	卒業 要件
①	卒業要件内	24	96	120	124
②	---- 全学共通科目 ----	2	46	44	44
	教養発展科目	0	2	2	2
	英語基礎A・B	0	4	4	4
	第二外国語基礎A・B	0	4	4	4
	スポーツ・健康(実技)	0	2	2	2
	スポーツ・健康(講義)	0	2	2	2
	自然の探究	0	4	4	4
	人間の探究	0	4	4	4
	社会の探究	2	10	4	4
	複合領域	0	6	4	4
	選択単位	0	8	14	14
③	---- フロート単位 ----	0	0	6	6
④	---- 学部固有科目 ----	22	50	70	74
	必修科目	4	12	16	20
	選択科目	18	38	54	54
⑤	---- 卒業要件外 ----	0	0	0	0
	教職課程科目	2	2	0	0
	司書課程科目	0	0	0	0
	司書教諭課程科目	0	0	0	0
	学芸員課程科目	0	0	0	0
⑥	自由科目	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0

### ① 卒業要件内

卒業要件に算入される単位数の集計欄です。

### ② 全学共通科目

全学共通科目における各科目区分ごとの集計欄です。

### ③ フロート単位

全学共通科目と学部固有科目の区分で修得した単位のうち、各区分の卒業要件を超過した単位数がフロート単位になります。なおフロートの卒業要件を超過すると自由科目の単位となります。

※フロート単位を設定している学部は、国際学部(18単位)及び心理学部(8単位)のみです。その他の学部には、フロート単位概念はありません。

### ④ 学部固有科目

学部固有科目における各科目区分ごとの集計欄です。

### ⑤ 卒業要件外

教職課程科目及び他の資格科目の集計欄です。

### ⑥ 自由科目

この表における自由科目とは教職・資格科目単位以外で、卒業要件に算入されない単位数です。

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10

## 単位集計表の見方(集計方法)

- ① **履修単位**：履修登録している単位数(通年科目を含む単位数)  
 ② **既修単位**：すでに修得した単位数  
 ③ **要卒業単位**：卒業に必要な単位数をどれだけ満たしているかを示した単位数  
 ※履修中の単位数(①履修単位)を含みます。要卒業単位は、履修単位がすべて合格すると仮定して算出した数字のため、履修科目が不合格となった場合には、要卒業単位の数字がその分だけ減ります。  
 ④ **卒業要件**：卒業に必要な各区分の単位数

## Point!

- 「③ 要卒業単位」の数値は、「④ 卒業要件」の数値を超えることはありません。
- 「③ 要卒業単位」と「④ 卒業要件」の数値が等しい場合は、履修登録中の科目の合格を前提として、その区分については卒業のために必要な要件を満たしていることを意味します。

## 留意事項

- 以下の図は見本です。学部によって卒業要件は異なりますので、注意してください。
- フロート単位を設定している学部は、国際学部及び心理学部のみです。その他の学部には、フロート単位の設定はありません。



区分	履修単位	既修単位	要卒業単位	卒業要件
★卒業要件内	24	96	120	124
---- 全学共通科目 ----	2	46	44	44
教養発展科目	0	2	2	2
英語基礎A・B	0	4	4	4
第二外国語基礎A・B	0	4	4	4
スポーツ・健康(実技)	0	2	2	2
スポーツ・健康(講義)	0	2	2	2
自然の探究	0	4	4	4
人間の探究	0	4	4	4
社会の探究	2	10	4	4
複合領域	0	6	4	4
選択単位	0	8	14	14
---- フロート単位 ----	0	0	6	6
---- 学部固有科目 ----	22	50	70	74
必修科目	4	12	16	20
選択科目	18	38	54	54
---- ★卒業要件外 ----	20	12	32	
教職課程科目	20	12	32	
司書課程科目	0	0	0	
司書教諭課程科目	0	0	0	
学芸員課程科目	0	0	0	
自由科目	0	0	0	
その他	0	0	0	

この例では、卒業要件内の「③要卒業単位」を満たすには、残り4単位が必要であることがわかります。  
 残りの4単位は、学部固有の必修科目の「③要卒業単位」が16で「④卒業要件」の20に達していないことから、学部固有の必修科目を修得する必要があることがわかります。

$$\begin{aligned} & \text{①} + \text{②} - \text{③} = \text{余り} \\ & 2 + 10 - 4 = 8 \\ & \quad 6 - 4 = 2 \\ & (8 + 10) - 14 = 4 \end{aligned}$$

合計10

卒業要件を超過した単位数が選択単位に加算されます。選択単位の超過分はフロートの要卒業単位へ流れます。

$$4 + 2 = 6$$

フロートは全学共通と学部固有の超過分から計算されます。さらに超過すると卒業要件外の「自由科目」の要卒業単位に加算されます。

$$(18 + 38) - 54 = 2$$

$$\text{①} + \text{②} - \text{③} = \text{余り}$$

※フロートは超過分から計算されるため既修単位は0のままです。フロートとして扱う一部の科目のみ既修単位として扱われます。  
 ※フロート単位の有無は学部によって異なります。

選択単位の超過分はフロートの要卒業単位へ

「★卒業要件外」の「③要卒業単位」は、「★卒業要件内」の「③要卒業単位」には含まれません。  
 「★卒業要件外」の「③要卒業単位」は「①履修単位」+「②既修単位」を合計した数です。この例では、「★卒業要件外」の「③要卒業単位」の32は、「★卒業要件内」の「③要卒業単位」の120には含まれません。「★卒業要件外」の「③要卒業単位」の32は、「①履修単位(20)」+「②既修単位(12)」の合計です。

各区分で「④卒業要件」の単位数を「③要卒業単位」の単位数が超過するよう履修登録をし、超過分が「★卒業要件内」の他の区分に流れない場合、「★卒業要件外」自由科目の「③要卒業単位」に表示されます。

履修単位数		
通年	春期	秋期
4	20	0

履修中の単位数が表示されます。  
 通年科目は、2で割った数値が学期ごとの履修登録単位上限としてカウントされます。

## 単位集計表の見方(Q&A)

Q1. 卒業に必要な単位を満たしているか、どのように確認すればよいですか？

A1. 各区分の、「③要卒単位」と「④卒業要件」の数字が同じかどうかで確認ができます。

例

区分	① 履修単位	② 既修単位	③ 要卒単位	④ 卒業要件
卒業要件内	10	110	120	124
自然の探究	0	4	4	4

③と④の数値を比較

この区分では、卒業に必要な単位が4単位不足。

この区分では、卒業に必要な単位を満たしている。

※「③要卒単位」は「①履修単位」がすべて合格すると仮定して算出した数字のため、不合格の科目があった場合は、その分の「③要卒単位」が減ります。

Q2. 全学共通の「選択単位」を満たすにはどうしたらよいですか？

A2. 次の I. II. の2つの方法があります。

例

区分	① 履修単位	② 既修単位	③ 要卒単位	④ 卒業要件
自然の探究	0	8	4	4
選択単位	0	2	6	14

④卒業要件を超過した単位が流れる

この数値を満たすには？

I. 「選択単位」以外の区分で、「④卒業要件」を超過して科目を履修・修得する。

II. 「選択単位」の区分の科目を履修・修得する。

※「自然の探究」で修得した「②既修単位」8単位のうち、「④卒業要件」4単位を超過して修得した4単位は「選択単位」の「③要卒単位」へ加算されます。「選択単位」で修得した「②既修単位」2単位とあわせて、「選択単位」の「③要卒単位」は6単位となります。

Q3. 「選択単位」の「②既修単位」の数字が増えないのですが大丈夫ですか？

A3. 「③要卒単位」と「④卒業要件」の数字が同じであれば、卒業に必要な単位を履修・修得できています。

例

区分	① 履修単位	② 既修単位	③ 要卒単位	④ 卒業要件
選択単位	2	2	14	14

この数値が増えなくて大丈夫？

「②既修単位」が足りなくても、「③要卒単位」と「④卒業要件」がイコールであれば卒業に必要な単位を満たす(③は、履修中の単位も含まれます)。